平成31年2月20日

政務活動費成果届出書

届出者　中川健一

○使途項目（○をつける）　調査研究・研　修・広　報・資料作成・資料購入

○タイトル

平和学習のあり方を多面的に行う取り組みなどについて

○目　的　（計画書の目的欄をそのまま記載）

半田市役所が取り組む平和事業は、中学生8名を広島へ派遣する平和研修、戦争の体験談を聴く平和懇談会（平成30年度は6小学校で実施）、半田空襲の日に市内の戦争遺跡を巡る戦争遺跡見学会（平成30年度バス1台）が主なものです。ｱﾒﾘｶ軍による原爆投下や無差別空襲（半田空襲）のことなど国際法違反による戦争被害に関する分野がほとんどです。

しかし日本は中国や東南ｱｼﾞｱ諸国、ｱﾒﾘｶ、ｵﾗﾝﾀﾞなどに対しては戦争の当事者で加害者の立場もあります。またソ連（現ﾛｼｱ）によって戦後にｼﾍﾞﾘｱへ抑留された日本軍人・軍属は約57万5千人に上り、苛烈な労働を強要させられたことにより、約55,000人が死亡しました。沖縄県では凄惨な地上戦も行われ、日本側の死者・行方不明者は188,136人に上り、その中には約94,000人もの民間人が含まれています。

このように一口に「平和」を考えると言っても軍人（戦闘員）、一般市民（非戦闘員）、加害者、被害者など立場によって視点も受け止め方も異なり、平和についての様々な見方があります。また戦争反対と唱えているだけでは平和が実現できる訳もありません。戦争を防止し、平和存続への処方箋を見出すには、戦争のﾒｶﾆｽﾞﾑと戦争が無い状態である平和のﾒｶﾆｽﾞﾑ解明に取り組む必要があります。

原爆被災都市広島を訪れている中学生平和事業はとても重要な事業です。しかし戦争と平和の全体像から見ると、一般市民（非戦闘員）の戦争被害と言うあまりにも一面的な取り組みではないでしょうか。

そこで、子どもたちは平和についてもっと多様な見方を学ぶ必要があると考え、本視察を計画します。

具体的には原爆被災都市広島に加え、軍人の視点に立って平和学習を行っている鹿児島県南九州市の知覧特攻平和会館と、軍人と被害者の双方の視点で平和事業を行う京都府舞鶴市の舞鶴引揚記念館へも中学生平和事業として半田の子どもたちを派遣することができないか、可能性を探ります。

確認欄	議長	管理委員長

愛知県
半田市役所
'19.2.21
30半議第827-2号
受付

○結　果　（目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。）

目的は達成できました。下記のような知見を得ることができました。

知覧特攻平和会館は、平成29年度で小学校248校、中学校147校、高校117校、その他の学校8校の520校が訪れています。修学旅行に限定すると、鹿児島県108校、宮崎県196校、福岡県25校で、愛知県からも3校が訪れています。成果としては同世代の多くの生徒が心の奥に残るものを得て帰ったとのことです。なお南九州市では平成30年度より、市内全小学校1回、全中学校1回の特攻平和会館での平和学習をしています。

鹿児島市では一つの中学校の一年生が総合学習として隣町にある知覧特攻平和会館を訪れています。自分たちとさほど年齢の変わらない若者が特攻隊員として飛び立ったことを知り、胸が苦しくなったと言う生徒もいました。生徒たちは命の尊さと、戦争は二度と起こしてはならない、と言うことを学んでいます。その他、市内の多くの小中学校が特攻平和会館を遠足などで訪れています。
また鹿児島市内中学生の修学旅行は長崎県であり、多くの中学生が長崎原爆記念館も訪れています。

舞鶴引揚記念館は、平成30年度の実績で、小学校30校、中学校12校、高校4校、大学その他を26校の受け入れをしています。また全小学校の6年生が引揚記念館を訪れるふるさと学習も行っています。記念館には抑留生活を体験できる施設もあり、戦争が終わったのに帰って来れない兵隊がいること、諦めては駄目だと言うことを学ぶと言う成果があるそうです。
また相模原市立藤野中学校の引揚記念館訪問の事例も説明を頂きました。

○提　言　（半田市に対し、何をどう活用するか。）

提言①　現在半田市役所が行っている平和事業に加え、知覧特攻平和会館や舞鶴引揚記念館から資料をお借りした平和展示会や講師を派遣して頂く平和講演を行うことを求めます。

提言②　現在、中学生8名を原爆被災都市広島へ派遣し、平和の尊さや平和を守ることの大切さを学んでいます。今後は知覧特攻平和会館と舞鶴引揚記念館へも中学生を派遣し、多面的な平和を学ぶことができるように事業を発展させることを求めます。

提言③　現在、中学生が東京、小学生が京都・奈良へ修学旅行に行っています。これを広島、長崎、知覧、舞鶴などで平和学習を行うことができるような行程へ変更できるように取り組みます。

確認欄	議長	管理委員長

中川

○その他　（その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。）

以下、交通費の派遣先比較です。交通費については、広島よりも知覧や舞鶴の方が安いことが分かります。
A）知多半田駅から鹿児島中央駅まで（全日空とﾊﾞｽと名鉄）は片路 13,870 円。
B）知多半田駅から東舞鶴駅まで（新幹線と在来線特急と名鉄）は片道 9,260 円
C)知多半田駅から広島駅まで（新幹線と名鉄）は片路 14,890 円

確認欄	議長	管理委員長

申し合わせ様式第２号

平成３１年２月２１日

政務活動費成果届出書

届出者　竹内　功治

○使途項目（○をつける）　調査研究・研　修・広　報・資料作成・資料購入

○タイトル

平和学習のあり方を多面的に行う取り組みなどについて

○目　的　（計画書の目的欄をそのまま記載）

半田市役所が取り組む平和事業は、中学生８名を広島へ派遣する平和研修、戦争の体験談を聴く平和懇談会（平成30年度は６小学校で実施）、半田空襲の日に市内の戦争遺跡を巡る戦争遺跡見学会（平成30年度バス１台）が主なものです。ｱﾒﾘｶ軍による原爆投下や無差別空襲（半田空襲）のことなど国際法違反による戦争被害に関する分野がほとんどです。

しかし日本は中国や東南ｱｼﾞｱ諸国、ｱﾒﾘｶ、ｵﾗﾝﾀﾞなどに対しては戦争の当事者で加害者の立場もあります。またソ連（現ﾛｼｱ）によって戦後にｼﾍﾞﾘｱへ抑留された日本軍人・軍属は約57万５千人に上り、苛烈な労働を強要させられたことにより、約５万５千人が死亡しました。沖縄県では凄惨な地上戦も行われ、日本側の死者・行方不明者は188,136人に上り、その中には約94,000人もの民間人が含まれています。

このように一口に「平和」を考えると言っても軍人（戦闘員）、一般市民（非戦闘員）、加害者、被害者など立場によって視点も受け止め方も異なり、平和についての様々な見方があります。また戦争反対と唱えているだけでは平和が実現できる訳もありません。戦争を防止し、平和存続への処方箋を見出すには、戦争のﾒｶﾆｽﾞﾑと戦争が無い状態である平和のﾒｶﾆｽﾞﾑ解明に取り組む必要があります。

原爆被災都市広島を訪れている中学生平和事業はとても重要な事業です。しかし戦争と平和の全体像から見ると、一般市民（非戦闘員）の戦争被害と言うあまりにも一面的な取り組みではないでしょうか。

そこで、子どもたちは平和についてもっと多様な見方を学ぶ必要があると考え、本視察を計画します。

具体的には原爆被災都市広島に加え、軍人の視点に立って平和学習を行っている鹿児島県南九州市の知覧特攻平和会館と、軍人と被害者の双方の視点で平和事業を行う京都府舞鶴市の舞鶴引揚記念館へも中学生平和事業として半田の子どもたちを派遣することができないか、可能性を探ります。

愛知県
半田市役所
'19.2.21
30半議第837-2号
受付

確認欄	議長	管理委員長

竹内

申し合わせ様式第２号

○結　果　（目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。）

達成できました。
知覧特攻平和会館では、従来の戦争被害からアプローチしている平和学習だけでなく、家族、そして命の大切さを感じることが出来る遺品や資料を通じて、恒久平和の教育を行っていました。昨年度、研修や修学旅行等で訪れている小学校は２４８校、中学校１４７校、高校・その他で１２５校あり、その際、涙を流しながら勉強する生徒もいるなど、多くの児童生徒が平和の大切さを学ぶことが出来ているのではないか、とのことでした。また南九州市では今年度より、全ての小中学校が知覧特攻平和会館で平和学習を行っています。

鹿児島市では各学校の判断になりますが、多くの小中学校の遠足や総合学習の一環として、知覧特攻平和会館に訪れているとのことです。児童生徒からは、自分たちと年齢が近い若者が特攻隊員として命を犠牲にしていたことを知り、胸が苦しくなった、家族を大切にしたいと考えた、などの感想文があったとのことです、実際に多くの児童生徒に、命の大切さ、恒久平和の教育は伝わっていると感じました。なお鹿児島市の中学校の修学旅行は長崎県であり、多くの中学生が長崎原爆記念館にも訪れています。

舞鶴引揚記念館では、戦争で捕虜になった際の悲惨な状況を知ることで、従来と違う戦争被害を通じての平和学習を行っていました。また最終的に引揚が完了したのは戦後１３年後の昭和３３年であり、絶対に諦めてはいけない、命を守りぬくということも学ぶことが出来ました。今年度、研修や修学旅行等で訪れている小学校は３０校、中学校１２校、高校・その他で３０校あり、多くの児童生徒がシベリア抑留の真実と地元の協力等を学びながら、平和の大切さを学ぶことが出来ているのではないか、とのことでした。また毎年、舞鶴市の全小学校の６年生がふるさと学習として、舞鶴引揚記念館に訪れています。

舞鶴市では、舞鶴引揚記念館を通じて、自分の地元のこと、命を守る大切さを考えることが出来る児童生徒が増えているのではないか、とのことでした。実際、施設には中学生の語り部もいるとのことです。また寝屋川市の小学校では、以前は京都市内の修学旅行だったところ、現在は引揚記念館まで来館するようになったなど、舞鶴引揚記念館の注目が高まってきているとのことでした。

確認欄	議長	管理委員長

竹内

申し合わせ様式第２号

○提　言　（半田市に対し、何をどう活用するか。）

平和学習

・半田市役所が行う平和学習の事業である、戦争の体験談を聴く平和懇談会や市内の戦争遺跡を巡る戦争遺跡見学会と併せて、新たな平和事業を行うべきです。具体的には、知覧特攻平和会館や舞鶴引揚記念館等の建設の意義を知り、遺品や資料を借りることや講師を派遣してもらうなどをして、今までと違う形での平和学習を実践すべきと考えます。

・毎年、市内で選ばれた中学生８名が広島の原爆ドーム等を見学していますが、その事業の内容を拡大すべきです。具体的には、知覧特攻平和会館や舞鶴引揚記念館等を中学生が見学し、戦争の遺品や資料を目に触れ、体験していくことで、命の大切さや恒久平和の教育を実践すべきと考えます。

・現在、市内の小学校の修学旅行は京都・奈良、中学校は東京を訪れる行程となっています。寺社仏閣や観光地巡り、グループで考える行先や遊園地へ行くことも良いことであると思いますが、公立の小中学校が行う修学旅行として、平和学習を行うことも検討、また変更すべきです。具体的に修学旅行の行程には、広島、長崎、知覧、舞鶴等、恒久平和の教育を体感できる場所を複数地選んで訪れるべきと考えます。

○その他　（その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。）

・知覧特攻平和会館では、訪れた小中学校の児童生徒一人ひとりにハガキを１枚渡し、家族へ手紙を送ることを行っています。この手紙を通じて、児童生徒は、平和の意味やありがたさを考え、また家族の大切さや感謝を感じることが出来るようになります。

・知覧特攻平和会館では、見学した高校生が発案した作文・スピーチコンテストを行っています。毎年、５千件ほどの応募があり、実際に鹿児島市では、多くの中学生が参加しているとのことでした。

・舞鶴引揚記念館並びにシベリア抑留について、平成２８年のセンター試験の問題に採用されるなど、近年になり注目されるようになってきています。

確認欄	議長	管理委員長

申し合わせ様式第２号

平成３１年２月１９日

政務活動費成果届出書

届出者　加藤美幸

○使途項目（○をつける）○調査研究・研　修・広　報・資料作成・資料購入

○タイトル

平和学習のあり方を多面的に行う取り組みなどについて

○目　的　（計画書の目的欄をそのまま記載）

半田市役所が取り組む平和事業は、中学生８名を広島へ派遣する平和研修、戦争の体験談を聴く平和懇談会（平成30年度は６小学校で実施）、半田空襲の日に市内の戦争遺跡を巡る戦争遺跡見学会（平成30年度バス１台）が主なものです。ｱﾒﾘｶ軍による原爆投下や無差別空襲（半田空襲）のことなど国際法違反による戦争被害に関する分野がほとんどです。

しかし日本は中国や東南ｱｼﾞｱ諸国、ｱﾒﾘｶ、ｵﾗﾝﾀﾞなどに対しては戦争の当事者で加害者の立場もあります。またソ連（現ﾛｼｱ）によって戦後にｼﾍﾞﾘｱへ抑留された日本軍人・軍属は約57万５千人に上り、苛烈な労働を強要させられたことにより、約５万５千人が死亡しました。沖縄県では凄惨な地上戦も行われ、日本側の死者・行方不明者は188,136人に上り、その中には約94,000人もの民間人が含まれています。

このように一口に「平和」を考えると言っても軍人（戦闘員）、一般市民（非戦闘員）、加害者、被害者など立場によって視点も受け止め方も異なり、平和についての様々な見方があります。また戦争反対と唱えているだけでは平和が実現できる訳もありません。戦争を防止し、平和存続への処方箋を見出すには、戦争のﾒｶﾆｽﾞﾑと戦争が無い状態である平和のﾒｶﾆｽﾞﾑ解明に取り組む必要があります。

原爆被災都市広島を訪れている中学生平和事業はとても重要な事業です。しかし戦争と平和の全体像から見ると、一般市民（非戦闘員）の戦争被害と言うあまりにも一面的な取り組みではないでしょうか。

そこで、子どもたちは平和についてもっと多様な見方を学ぶ必要があると考え、本視察を計画します。

具体的には原爆被災都市広島に加え、軍人の視点に立って平和学習を行っている鹿児島県南九州市の知覧特攻平和会館と、軍人と被害者の双方の視点で平和事業を行う京都府舞鶴市の舞鶴引揚記念館へも中学生平和事業として半田の子どもたちを派遣することができないか、可能性を探ります。

確認欄	議長	管理委員長

愛知県
半田市役所
'19.2.21
30 半議第837-2号
受付

申し合わせ様式第２号

加藤

○結　果　（目的は達成できたか。予想と外れた場合にはその旨も記載。）

この視察において、当初の目的を達成することができました。また、各視察地においてはさまざまな知見とともに、感慨深い学びを得ることができました。

【知覧特攻平和会館（南九州市）】

・平成 29 年来館 381,647 人の 12%が、教育･修学旅行 46,465 人。
520 校（小 248，中 117，その他 8)、九州 365 校、関西 49 校、愛知県 3 校

・特攻隊員の遺品 8,103 点含め 15,023 点の資料を保存。17 歳という若い隊員の遺影や遺書などありのままを展示し、来訪者それぞれの人が自分の感じ方で戦争・平和・命・家族の絆など何か一つでも感じてもらいたいとのことです。語り部さんは相手の地元出身の特攻隊員のことを詳しく説明するとのこと。修学旅行で訪れた生徒たちには一枚ずつ絵葉書を渡し、見学後に家族へ手紙を書いてもらい知覧から郵便を出します。「平和を語り継ぐ都市」を宣言し毎年平和スピーチコンテストで、小中高生が自分のことばで平和への思いを語る取り組みをしています。

【鹿児島市役所・学校教育課】

・市内の一部の学校の平和学習についてうかがいました。中学１年３学期に半日、知覧特攻平和祈念館で学びます。事前学習含め１０時間を費やします。中学２年の修学旅行で
長崎平和公園を訪れます。生徒たちは、これらの学習を通して命の尊さと、戦争は二度と起こしてはならないことを学んでいます。

【舞鶴引揚記念館（京都府）】

・「語り継ぐ引き揚げの歴史」、「平和の尊さを後世に伝える」ための施設でユネスコ世界記録遺産に登録された資料 570 点など大切に保持し、市直営で運営され専門的な学芸員を配置しています。移民にいたる背景から戦争、抑留、引き揚げ者をもてなした舞鶴の人など、子どもたちに理解しやすく工夫して展示され、さらには語り部さんが質問にも応じてくれます。平成 30 年４月～12 月末までに小学校 30 校、中学校 12 校を受け入れ、研修後の感想や千羽鶴が多数寄せられていました。事前学習プログラムを用意され各地へ出前講座や巡回展も行っています。

【舞鶴市役所・観光商業課】

・教育旅行受け入れ推進について、引揚記念館・入港体験乗船・赤れんがパークなどを中心としたモデルコースの行程など説明いただきました。横須賀市など旧海軍港のあった都市と連携し学生の交流をはかっています。

確認欄	議長	管理委員長

加藤

申し合わせ様式第２号

○提　言　（半田市に対し、何をどう活用するか。）

１．半田市が行っている以下の平和事業を見直す必要があります。
①中学生８名を広島へ派遣する平和研修は、参加者が限られたごく一部の生徒であることや研修地がずっと広島のみであることが適正であるか。

２．戦争を知らない世代や子どもたち一人一人が自分の中に、二度と戦争を起こしてはならないと思ってもらうためには、様々な角度での新たな平和教育の取組みが必要と考えます。
①過去の戦争の背景や被害など多様な観点から学び事前学習をしたうえで、知覧、舞鶴、長崎、広島など平和教育をすすめる場所への修学旅行を検討すべきではないですか。
②知覧特攻平和会館や舞鶴引揚記念館では、全国各地で巡回展や語り部さんによる講演会を行っています。半田市の赤レンガ建物などへ誘致し広い世代の多くの人に、戦争の歴史を知ってもらうとともに赤レンガ壁の機銃掃射跡を見ることで、より平和の大切さを感じてもらう取り組みが必要です。その場合、小中学校からは授業の一環として見学し学んでいただきたい。

○その他　（その他特記事項があれば記載。目的とは別内容も可。）

確認欄	議長	管理委員長